



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。  
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。  
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。  
よろしくお願いいたします。

## ★資料名

お母さんへの手紙

## ★今回の道徳の授業のねらい

生命のかけがえのなさを自覚するとともに、人間の誕生の喜びや死の重さについて知り、よりよく生きようとする心情を育てます。

## ★お話のあらすじと内容

重い心臓病の手術を前にして、佐江子は母に手紙を書きます。育ててくれたことへの感謝の思いが、小さいころの思い出から始まって現在の気持ちまで豊かな言葉でつづられています。そこには、限りある自分の命を精いっぱい生きてきた佐江子の心の動きと、母への感謝と励ましの言葉が書かれています。生きることの意義や命を輝かせて生きることのすばらしさについて考えられる教材です。

## ★子どもたちの授業で感じたことや振り返り

- ・佐江子さんは、病気を絶対治したい・お母さんいつもありがとうという気持ちでこの手紙を書いたと思えます。
- ・お母さんは、病気を代わってあげられないからできる限り悲しい思いをしないように見守ってあげたいという気持ちだったと思えます。
- ・このお話を聞いて、自分が佐江子さんみたいな重い病気だったら、手紙は書かないと思えます。でも、佐江子さんは、お母さんに手紙を書いて、手術がんばろうねと書いてあってすごく佐江子さんとお母さんの家族のきずなを感じました。

## ★家庭で話し合ってもらいたいこと

多くの子供たちは、今この瞬間を生きていることを「あたりまえ」のことだと思っています。あたりまえに今日を生きて、あたりまえに明日も生きられるということを感じて疑いません。大人も同じです。そこで、この教材をお読みいただき、「限りある命」を大切にすることや「生きることのすばらしさ」について、お子さんといっしょに話し合ってもらいたいです。そして、まずはわたしたち大人が、今を生きることのすばらしさを感じ、命の重さを尊重する生き方を子供たちに示すことが大切なことだと思えます。